

令和7年度 校内研究計画

1 研究主題

主体的に考え、自分の言葉で表現する力を育てる授業

2 主題設定の理由

(1) 昨年度の成果

昨年度の校内研究『子どもの「面白い・やってみたい！」を引き出す授業』では、特定の教科・領域の学習に限定せずに、子どもの「面白い・やってみたい！」を引き出すための指導方法について研究した。研究の視点は、①子どもの「なぜ」「どうして」を引き出す発問、②子どもの学び合い③次につながる振り返りの3つとした。

成果として「子ども達の驚きや疑問を引き出す発問」や「伝え合う場を意図的に設定すること」等の手立てが、子どもの「面白い・やってみたい！」という意欲を引き出すことに有効であることがわかった。

(2) 鴨川市学力向上推進計画と関連

鴨川市では、授業改善の重点を「学習のねらいを達成するため、自分の考えをもって学び合い、記述内容の質の向上をめざす」としている。しかし、本校の子ども達の実態として、その前段となる書くことの苦手意識等が挙げられた。そこで、今年度は、本校の子ども達の実態をふまえ、まずは書くことへの抵抗感や苦手意識を減らすことに焦点を当てながら、段階的に「記述内容の質の向上」に近づけるために、『主体的に考え、自分の言葉で表現する力を育てる授業』を主題として、研究に取り組むこととする。

(3) 子どもの実態（書くことに関する実態）

本校の子どもたちの表現力、特に「書くこと」に関する課題として、書くことへの苦手意識や抵抗感をもった児童が多いこと、また、知識・技能面においては、「語彙が乏しい」「順序だてたり根拠を示したり書き表すことが十分に身に付いていないこと」等があげられる。これらの課題を改善し、記述内容の質の向上を目指すために、望ましい具体的な姿を「書くことに進んで取り組むことができる」「語彙を豊かに使いこなすことができる」「順序だてたり根拠を示したりする書き方がわかる」「主体的に学んだり、日常的に学び合ったりできる」と捉え、めざす子ども像を、「自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる子ども」とした。

(4) めざす学校像とのかかわり

学校教育目標「チャレンジする田原っ子」の具現化の1つに、めざす子ども像の「かしこい子」の育成がある。「かしこい子」で目指す【①自ら学び続ける子、②よく考え表現する子、③仲間と学び合う子】を育成するためには、自ら課題を見つけ、積極的に学ぼうとする姿や学んだことを生かそうとする姿、仲間と協働して考えを生み出す姿が大切である。

本校の研究主題「主体的に考え、自分の言葉で表現する力を育てる授業」に迫るためには、かしこい子に示されている①自ら学び続ける子、②よく考え表現する子、③仲間と学び合う子を日常の学びを通して育て、そして、「自ら考え、自主的・主体的に行動できる子ども」を育成していくことが大切である。

3 研究の目的

○各教科・領域の学習において、『主体的に考え、自分の言葉で表現する力』を育てるための指導方法を探る。

4 『校内研究』におけるめざす子ども像

自分の考えをもち、自分の言葉で表現できる子ども

5 研究の視点について

【視点①】 書くことへの抵抗感や苦手意識をへらすための工夫

本校では、書くことへの苦手意識を強くもっている子どもが多い。理由として、自分の考えを表現するための書き方がわからないことが原因として考えられる。自分の考えを文章で表現するためには、自分の考えをもち、順序だてたり根拠を示したりすることが大事である。

そこで、自分の考えについて文章表現する場を意図的に位置づけることで書くことへの抵抗感や苦手意識をへらしていきたい。

【視点②】 自分の考えをもたせるための工夫

昨年度、『子どもの「面白い・やってみたい！」を引き出す授業』を研究主題として取り組み、子ども達の「面白い・やってみたい！」という思いを引き出せてきてはいるが、学校全体の子どもとしては学習に対して消極的な子どもの割合が多く、子どもの主体性を育てるという点ではまだ不十分である。そのため、最初から友達の考えに頼ってしまい、自分の考えをもつことができていない子どももいる。

そこで、自分の考えを伝えたい、表現したいという思いをより強くもたせるための工夫をしていくことで、子どもの伝えたいという意欲を向上させたい。

【視点③】 記述の質を高めるための工夫

記述の質を高めるためには、自分の考えや表現したものについて、学習を進める中で、修正したり応用したりすることが重要である。そこで、自分の学びをよりよいものにするために、自分の考えを見直したり他者と学び合ったりすることで、自分の学びを修正したり応用したりして、記述の質の向上をさせたい。

6 研究の方法

- ・1人1実践研究授業を行い、手立ての有効性について検証する。
- ・鴨川市一斉授業研究会に参加したり、先行研究を参考にしたりして、手立ての有効性について論理的に学ぶ。